

【10】児湯郡小体連（学校数 15 校 児童数 3,709 人）

I 年間事業

月日（曜日）	事業名	内容【出会者】
4月16日（月） 西都コミュニティセンター	第1回地区準備委員会 第1回地区研究推進委員会	【理事長・研究部長・授業者】 ○ 第59回県学体研について
5月10日（木） 高鍋高校	第1回小・中・高体連合同理事会	【会長・理事長】 ○ 平成30年度の取組
5月11日（金） KIRISIMA サンマリ ンスタジアム宮崎	宮崎県小学校体育連盟 第1回評議員会 14:00~16:00	【会長・理事長】 ○ 新役員の発表及びあいさつ ○ 平成29・30年度 報告・協議
5月18日（金） 西都コミュニティセンター	第1回県実行委員会 第1回地区実行委員会	【理事長・研究部長・授業者・会計・部長】 ○ 第59回県学体研について
6月1日（金） KIRISIMA ヤマザクラ宮崎 県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第1回理事会・専門部会 14:00~16:00	【理事長・研究部長・事業部長出会】 ○ 事務局からの報告 ○ 理事会・専門部会
6月5日（火） 通山小学校	第1回児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 役員・会員の自己紹介 ○ 県小体連理事会・専門部会報告 ○ 協議(事業計画 研究構想) 等
6月14日（木） 西都コミュニティセンター	第2回県研究部会 第2回地区運営委員会	【理事長・研究部長・授業者・会計】 ○ 大会要項、指導案検討 等
7月2日（月） 多賀小学校	第2回児湯小学校体育研究会 ○ 研究授業 授業者（多賀小 長友 里津子教諭）	○ 視点説明、事前研 ○ 研究授業 ○ 事後研究会
7月6日（金） 都農南小学校	第3回児湯小学校体育研究会 ○ 研究授業 授業者（都農南小 福田 哲也教諭）	○ 研究授業 ○ 事後研究会
7月10日（火） 西都コミュニティセンター	第2回地区実行委員会 第3回研究部会、運営委員会 合同部会、合同研究部会（午後全員）	【会長・体育主任】 ○ 第59回県学体研について
8月17日（金） KIRISIMA ヤマザクラ宮崎 県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第2回理事会・専門部会・合同研修会 10:00~16:00	【理事長・研究部長・事業部長・授業者】 ○ スポーツ事業委託金配付 ○ 県学体研における指導案検討
8月21日（火）	第4回県研究部会 第4回地区運営委員会	【理事長・研究部長・授業者・会計・部長】 ○ 大会要項、指導案検討 等
9月20日（木）	第3回地区実行委員会 第5回県研究部会、地区運営委員会	【理事長・研究部長・授業者・会計・部長】 ○ 大会要項、指導案検討 等
10月15日（月） 川南小学校	事前授業研究会 小学校部会	【会長・体育主任】 ○ 事前授業研究会
10月25日（木） たかしん・川南小	第3回県実行委員会（午前） 小学校部会前日準備（午後）	【会長・体育主任】 ○ 県学体研・小学校部会前日準備
10月26日（金） 川南小学校	第59回宮崎県学校体育研究発表大会・小学校部会	○ 児湯・西都地区主催 小学校部会 川南町立川南小学校
11月27日（火） 通山小学校	第4回児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 第59回宮崎県学校体育研究発表大会・小学校部会の反省 等

12月11日(火)	第4回県実行委員会 第5回地区実行委員会	【理事長・研究部長・会計】 ○ 反省・報告 等
2月8日(金) 高鍋高校	第2回小・中・高体連合同理事会	【会長・理事長】 ○ 平成30年度のまとめ
2月8日(金) KIRISIMA ヤマザクラ宮崎 県総合運動公園 合宿所	宮崎県小学校体育連盟 第2回評議員会 14:00~16:00	【会長・理事長】 ○ 各地区スポーツ事業報告 ○ 各地区の小体連の研究の取組 ○ 研究発表大会のまとめ
2月21日(木) 通山小学校	第5回児湯小学校体育研究会 15:00~16:30	○ 協議(本年度研究のまとめと来年度 研究の方向付け、来年度の役員 等)

II 事業部のあゆみ

児湯郡内における児童の体力向上のために、通信水泳記録会（5、6年生児童対象）、通信陸上記録会（6年生児童対象）を実施した。

平成30年度 東児湯小学校通信水泳記録会実施計画案

1 目的

- 各学校の水泳記録会の発表の場を通して、泳力向上の意欲を高めるとともに、他校の泳力の実態を知る。

2 対象

- 児湯管内の小学校5・6年児童

3 募集記録

- 各学年 男女別 自由形（25m・50m） 平泳ぎ（25m・50m）
男女別 リレー（25m×4名）

4 実施方法

- 基本的に宮崎県小学校体育連盟標準記録認定要領をもとに実施する。

5 応募方法

- (1) 各校の記録をデータでまとめ、第4回体育主任会（11月27日）にて集計する。
- (2) 事業部で記録を集約し、結果を報告する。
- (3) 各種目、1位から3位まで表彰する。

平成30年度 東児湯小学校通信陸上記録会実施計画案

1 目的

- 各学校の陸上（50m走・ソフトボール投げ）記録会の発表の場を通して、体力向上の意欲を高めるとともに、他校の運動能力の実態を知る。

2 対象

- 児湯管内の小学校6年児童

3 募集記録

- 男女ともに50m走とソフトボール投げの記録を測定する。

4 実施方法

(1) 50m走

- 基本的に文部科学省が定めた「新体力テスト実施要項」をもとに実施する。

(2) ソフトボール投げ

- 基本的に文部科学省が定めた「新体力テスト実施要項」をもとに実施する。
- 投球フォームは自由である。できるだけ「下手投げ」をせず、ステップして投げた方が良い。

5 応募方法

- (1) 各校の記録をデータでまとめ、第4回体育主任会（11月27日）にて集計する。
- (2) 事業部で記録を集約し、結果を報告する。
- (3) 各種目、1位から3位まで表彰する。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 研究の全体構想



3 研究の実際

(1) 指導方法の工夫改善

ア 「主体的・対話的で深い学び」について

「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」は実際の授業においてそれらを相互に関連付けながら行われるものであるが、それぞれの視点を明確にできるように、本研究における主体的・対話的で深い学びについての定義について、共通理解を図った。

イ 1単位時間の学習指導過程の工夫

「体づくり運動」の学習を進めていく上で、学習指導過程の「はじめ」「なか」「おわり」の各段階で行う指導内容の明確化を図った。

ウ 上達を実感できるための手立て

(ア) 運動の行い方の工夫

児童の興味・関心に応じて「工夫する視点」を与え、それを基に運動条件を変化させるようにした。運動条件の変化については、「方向・人数・用具・距離・姿勢・時間」の6点を示し、児童がその中から選択して行えるようにした。

(イ) 学び合う場の設定

「主体的・対話的で深い学び」を行うために、授業の中で行う運動についてポイントを示し、全体指導を行って、児童の共通理解を図った。また、それらの運動を行う中で運動をしながら話し合い活動を行い、運動の行い方を児童同士で工夫できるようにした。

(ウ) 自己評価の行い方

「上達」の内容を自己評価する際に「回数」や「点数」などで行わずに、友達からの称賛や運動のコツに気付いたことなどを中心に記入させるようにする。運動の行い方に関する記述内容や、運動を行っている際のつぶやきなどを教師が称賛することで、上達に気付けるようにする。この際、児童も教師も学習を通して動きがスムーズになったり、安心してできるようになったりした点などを、量的な面ではなく質的な面で評価するようにした。

(2) 学習資料の工夫

ア ワークシートの工夫

授業の振り返りや、運動のポイントをもとに話し合い活動を行うために、ワークシートに直接運動の仕方や、運動例のコツを書き込むことができるようにした。また、自分が上達したと感じる内容だけでなく、友達との関わりや運動の工夫についても記載できるようにした。

イ 掲示資料の活用

学習活動が効果的に行われるように、掲示物の工夫を行った。運動例ごとに児童から出た運動のポイントやコツを示して、児童が自発的に話し合いや運動の工夫を行うことができるように運動例を示した掲示物に直接書き込み、児童の意見を取り入れながら授業を進めることができるようにした。



【研究授業での児童の活動の様子】



【まとめの段階でのワークシートの記入】

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「主体的・対話的で深い学び」を行うための定義づけを行い、学習指導過程を工夫したことで、体験したことから感じ取ったことを表現したり、課題解決について構想を立ててそれを評価したり、他者と考えを伝え合い自他ともに考えを発展させたりしていく学習を構築することができた。
- 児童の興味・関心に応じて6点の「工夫する視点」を与え、それを基に児童が運動の条件を変化できるようにしたことで、児童が主体的に運動に参加しながら、話し合い活動を通して運動の行い方を工夫することができるようになり、目指す児童像の姿につながった。
- 掲示資料やワークシートを活用したり、運動のポイントを示したりしたことで、より話し合いの内容に深まりがみられた。
- 自己評価する際に、「回数」や「点数」などではなく、友達からの称賛や運動のコツに気付いたこと、運動の行い方の工夫の仕方など、ワークシートの記述内容から行うようにしたことで、より児童が運動の質の高まりや動きの上達を感じられるような評価を行うことができた。

(2) 課題

- 「はじめ」「なか」「おわり」の各段階で内容を具体的に示して授業を行ったが、運動の時間が足りなかったり、児童の動きの高まりがみられなかったりしたことがあった。児童の実態に合わせてより柔軟に授業内容を組み立てていく必要がある。
- 書き込む時間が多くなり運動時間の確保が難しくなることがあったので、書く内容や量を児童の実態に合わせるなど、さらなるワークシートの工夫・改善を図る必要がある。